

令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業 (病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業) 事業成果報告書(概要版) 宮城県教育委員会

1. 背景・目的



- ・入院中に勉強してもいいのかな？
- ・どうやって病院とつながれば？
- ・遠隔授業の経験もないし…

- ・入院中の高校生の様子がわからない
- ・病院とのやり取りに対する不安
- ・遠隔教育はどうやっていい？



- ・勉強が遅れないか心配…
- ・友達は？部活は？
- ・ちゃんと学校に戻れるの？
- ・みんなと一緒に進級したい！

- ・病気や入院によるショック、落ちこみ
- ・治療や入院生活に対する不安
- ・学校に通えないことの不安

医教連携コーディネーター

- ・学校と病院の橋渡し
- ・学校へのアドバイス



**入院しても、
学習を続けられる！
学校（社会）とのつながり
を保てる！**

高校教育課担当

- ・遠隔教育機器の整備、拡充
- ・単位の履修、修得に係る相談



速やかな支援開始

医教連携コーディネーターを活用し、医療機関と高等学校の連携体制を構築して、病気療養中の生徒に対する学習支援への学校側の心理的なハードルを下げる。



生徒の状況に合わせたICT活用

ICTを活用した遠隔授業を実施するための環境・機器の整備と充実に努めるとともに、適切な活用方法について学校へ助言を行う。



すべての生徒へ支援を！

同時双方向型及びオンデマンド型授業による学習支援の事例を収集及び研究して情報を発信し、医療機関や学校への理解啓発を図る。



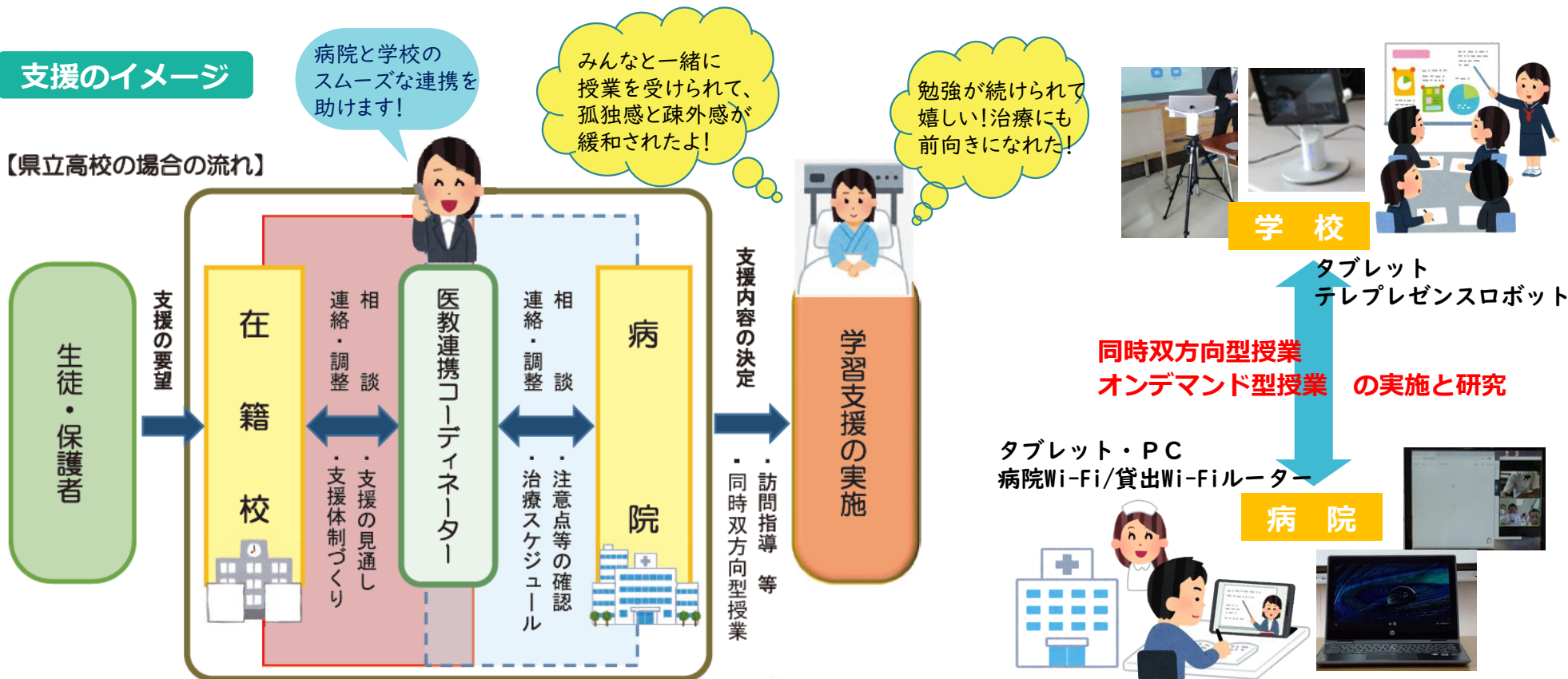
令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告書(概要版) 宮城県教育委員会

2. 実施内容

入院やその後の自宅療養のため、学校で授業を受けることができない高校生に対して、必要な学習を途切れなく続けることができるよう、医教連携コーディネーターを中心に、学校と病院、教育委員会が連携しながら、ICT等を活用して学習支援を行う。

支援のイメージ

【県立高校の場合の流れ】



令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業 (病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業) 事業成果報告書(概要版) 宮城県教育委員会

3. 成果・課題

成 果

病院との連携強化

- ・ 協力病院である東北大学病院、県立こども病院に加え、病院規模の大小や診療科を問わず、多くの病院との連携を経験。
- ・ 遠隔授業による学習支援が可能であることを初めて知ったという病院も多くあったが、当該事業を通して支援を経験したことで、今後、新たな事例にもスムーズに対応することができる。

自走する学校が増加

- ・ 当該事業を利用した経験のある学校は、再び入院生徒の支援が必要となった場合、学校独自で病院と連携し、支援を進めることが増えている。
- ・ 医教連携コーディネーターの支援により、病院との連携のノウハウを身に付け、トラブルや遅延なく支援を開始することができている。

遠隔授業の実施・評価の経験を蓄積

- ・ 多様な学習ニーズに対応する遠隔授業の実施体制が各校で整いつつある。
- ・ 同時双方向型授業のみならず、オンデマンド型授業の実施件数も増えているが、対面授業と同等の教育効果をもたせるための工夫が各学校でなされている。
- ・ 出席確認、視聴確認、評価等の実践事例を蓄積できた。

復学支援体制の整備

- ・ スムーズで安全な復学のため、病院で開催する復学カンファレンスに医教連携コーディネーターや教員が参加する経験を蓄積。
- ・ 校内委員会を開催して当該生徒の支援の在り方を協議したり、必要に応じて生活支援員等を活用するなど、復学する生徒それぞれの状況に対応した支援がなされた。

生徒・保護者・教員の感想から

【生徒】成績がどうなってしまうのか不安があったので、学習支援が受けられてとても助かった。会えなかった友達や先生に会えたこともうれしかった。

【保護者】録画の授業（オンデマンド型授業）は、治療スケジュールに合わせて取り組めたのでとてもよかった。

【教員】遠隔授業実施の校内体制を整備し、充実させることができた。



令和6年度 ICTを活用した障害のある児童生徒等に対する指導の充実事業
(病気療養中等の児童生徒に対するオンデマンド型の授業に係る調査研究事業)
事業成果報告書(概要版) 宮城県教育委員会

3. 成果・課題

今後の方向性



**全ての学校が自走
する体制を目指して**

医教連携コーディネーターを配置しての学校支援を継続しながら、将来的には、全ての学校が自走し、病気療養中であっても学習機会が保障される体制を確立



**遠隔授業の
質を高める**

入院中でも学習意欲を維持する指導を工夫しながら、学習効果をできるかぎり高める同時双方向型授業・オンデマンド型授業の在り方を研究



**使用機器と通信環境
の整備**

通信環境がない場合でも遠隔授業を行うためのWi-Fiルーターの準備や、テレプレゼンスロボットを活用するための複数のタブレット端末等を整備拡充

本事業は、文部科学省の委託を受け、実施したものです。
報告書の詳細は、下記URLからご覧ください。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/main/006/r06/1422284_00002.htm

